

# 森の環境レスキュー隊 I

## ■ 事業のねらい

小学校3年生～中学生を対象に、森林での自然体験活動をとおして、身近な環境問題に対する興味・関心を高めるとともに、環境に配慮して主体的に行動する意欲や態度を育てる。



- 実施日 平成23年5月28日(土)～29日(日) 1泊2日
- 参加対象 小学3年生～中学生 20名
- 参加実績 参加者：10名  
小3＝4名、小4＝2名、小5＝4名  
男子＝5名、女子＝5名 (十勝管内)  
運営協力者：大学生1名、専門学校生1名、高校生1名
- 備考 活動場所：足寄町  
共催：九州大学北海道演習林・足寄町教育委員会

## 1 事業実施の背景



地球温暖化やエネルギー問題、廃棄物処理の問題など、地球規模の環境問題がクローズアップされている中、国連が世界中の森林の持続可能な経営保全への認識を高めるとして、今年2011年を「国際森林年」と定めた。人々と森林のかかわり方について、世界の人々に認識を高めてもらおうという国際的な取組の中、本事業では、参加者が、植樹や森林での自然体験活動をとおして環境への意識を高めるとともに、互いに認め合い、協力し合う集団での体験活動をとおして自己肯定感を高めさせ、望ましい人間関係を育むために実施するものである。

## 2 プログラムデザイン

	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
5/28 (土)	受付 10:00～ 10:30	受 開 会 付 式	アイ ス ブ レ イ ク	森の探検・植樹・バードウォッチング※雨天決行 (九州大学北海道演習林内)				入 浴	夕 食	森 の 調 査 ま と め ①	巣 箱 作 り ①	就 寝 準 備	就 寝
				●車が演習林に入れないほどの荒天の場合 森の自然散策・野鳥の生態学習									
				●屋外で活動不可能の場合 林長のお話、調べ学習、館内ウォークラリー等									
5/29 (日)	6	7	8	9	10	11	12						
	起 床	洗 面 ・ 清 掃	朝 食	朝 読 書	巣 箱 作 り ② け	閉 会 式	11:30 解散						

## ■ アクティビティについて



## ■ 意図

- 足寄の豊かな自然の中で、森の散策やバードウォッチングなどの体験活動をとおして、自然の素晴らしさ・尊さ・美しさを体感する。
- 動植物を多面的に観察しながら、自分たちの生活との関わりを考え、生き物や生命を大切にする心を育む。

## ■ 留意事項

- 演習林保護区内は、歩行上危険箇所も多く、ダニや虫なども多いことから、事前の実地踏査を含め、九州大学の職員と綿密な行動計画を作成した。
- 巣箱づくりでは、朝読書で心を落ち着かせて集中力を高めたあとに、ノコギリや金づちなどの道具を安全に扱うようにした上、ボランティアリーダーへの事前指導を徹底し、けがの未然防止に努めた。

### 3 活動の様子



#### ■ 当日の様子

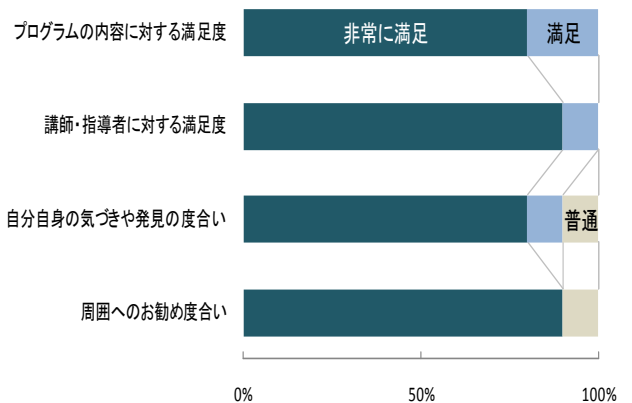
初日は九州大学北海道演習林（久米篤林長）職員の説明を聞きながら、演習林保護区内にカラマツの苗木を100本植樹。そのあと演習林内を歩き、森林や植生の違いを観察したり、野鳥や小動物などの生息状況を多面的に調査した。参加した子どもたちは、「植えた木は3年で小さいのに、森の木は25年であんなに大きくなるなんてびっくりした。」「『キハダ』は表面がコルクのような感触でした。」「いろんな鳥の鳴き声がありました。鳥の巣があったのですごいと思いました。」など感想を寄せ、森の自然環境について、多くの発見をすることができたようである。

ネイパルあしよろに移動したあと、グループごとに観察した森の様子を振り返るとともに、道東に生息する野鳥の生態を職員自らが撮影した写真を教材にしながら学び、森の中で観察した野鳥の声を確認し合った。

2日目は、朝読書を行い、心を落ち着かせて集中力を高めてから、野鳥の巣箱づくりを行った。製作した巣箱は、ネイパルの環境学習の森に設置し、観察記録を付けながら、継続して野鳥の生態を学習していく計画である。参加者からは、「巣箱づくりが思ったよりうまくできてよかった。」「今回は人数が少なかったのですが、参加した仲間同士すぐに友だちになりました。巣箱づくりが特に楽しかったです。」などの感想が聞かれた。

#### ■ 参加者の声

- 参加者の満足度については、右グラフのとおり。
- 活動についての感想  
「植えた木は3年で小さいのに、森の木は25年であんなに大きくなるなんてびっくりした。」（小4）  
「シカが角を研いでいた木はシカが気に入っているのかなあと思いました。」（小3）  
「木や土にろ過されたわき水が消毒しないでおいしく飲めてすごいなあと思いました。」（小5）  
「木を植えるのもすばこを作るのもたいへんだったけど、みんなで協力して、全部できたのでよかったです。」（小5）



### 4 事業評価

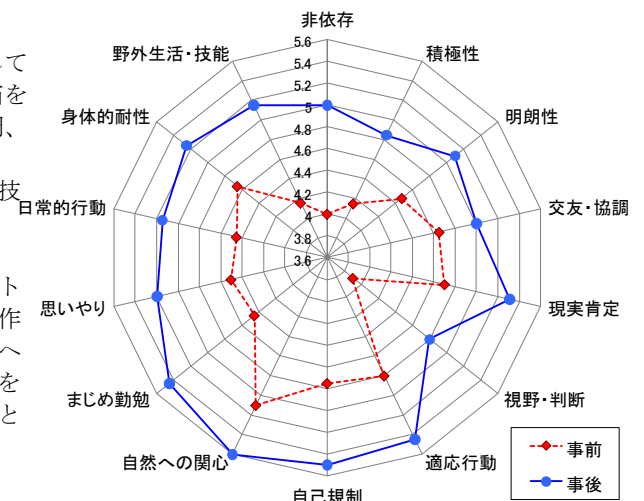
#### ■ 参加者の変容【I K R調査結果】

グループの仲間と一緒に木を植えたり、森に住む生き物の観察をしてグループの意見をまとめたほか、グループの仲間と一緒に野鳥の巣箱を作るなど、仲間と協力して活動する場面をたくさん設け、交友・協調、明朗性、積極性、思いやりなどの向上を図ることに重点を置いた。

結果として期待していたとおりの効果が得られたほか、野外生活・技能、まじめ勤勉、自己規制の分野でも向上が目立った。

#### ■ 結果の分析・考察

野外生活・技能、非依存、まじめ勤勉の各項目において約1ポイントの大きな伸びが見られたが、これは自らの手で植樹をしたり、巣箱を作った体験活動によるものと考えられる。さらに樹木や野鳥の観察が、自然への感心、視野・判断を大きく向上させ、また協力し合う集団体験活動を多く取り入れたことも、参加者にとって効果的なプログラムであったと考える。



### 5 まとめ



#### ■ 成果

- 学びの振り返りでは、参加者の相互の信頼関係を背景に、互いの学びを支え合い、共に高まる学習活動を生起・促進させる「協同学習」のスキルを取り入れることにより、活発に意見交換がなされ、参加者に新しい発見や気づきが得られた。
- 国連が定める「国際森林年」にふさわしく、生物と森林との不可欠な関係を理解し、国内のメインテーマである「森を歩く」ことをとおして、森林の重要性を再認識する体験活動となった。
- 参加者を支援するボランティアリーダーへ事業趣旨を丁寧に説明した上、参加者の持っている可能性を引き出せるようリーダーとしての視点や助言の仕方を具体的に示した結果、リーダーたちが参加者同士の人間関係を丁寧に観察し、適切な助言や支援ができ、参加者の満足度も大きく向上したと考える。

#### ■ 課題・今後の方向性

- 参加者が減少傾向にあるが、総合的な学習の時間をはじめ学校教育における環境学習が充実しつつあることから、学校教育では体験できないような、より大胆な体験活動の実施や新しい視点に立った環境学習へのアプローチを検討する必要がある。